

【現代美術の私設美術館「やまきわ美術館」第一回展覧会オープン！】

このたびオープンする「やまきわ美術館」は、松之山の上蝦池集落にある古民家を舞台とするギャラリーです。

7月4日から10月26日まで、グループ展「七院から」を開催いたします。出展するのは、東京・群馬・宮城など日本各地から招いた、5人の若手作家です。初回の展覧会では、「家」をテーマにインスタレーション展示を行います。

春夏秋冬度重なる滞在制作のすえ、呈示された「家」や「場所」への視点は、日常／非常日、オラコ／ヨソとの間で広く開かれ、地域の皆様にとっても刺激的なものになっていくのではないかと思います。ぜひ一度、ご来館ください。

開催概要

展覧会タイトル	「七院から」
会期	2014年7月4日(金)–10月26日(日)
出展作家	池ヶ谷侑／井口香奈子／外丸治／平山真澄／山田沙奈恵
開館時間	10:00 – 17:00 金,土,日
入場料	無料
会場	やまきわ美術館 新潟県十日町市松之山上蝦池 350
連絡先	025-594-7667 (連絡可能時間 10:00-17:00) info@yamakiwagallery.com
HP	www.yamakiwagallery.com
代表	福島ゆり

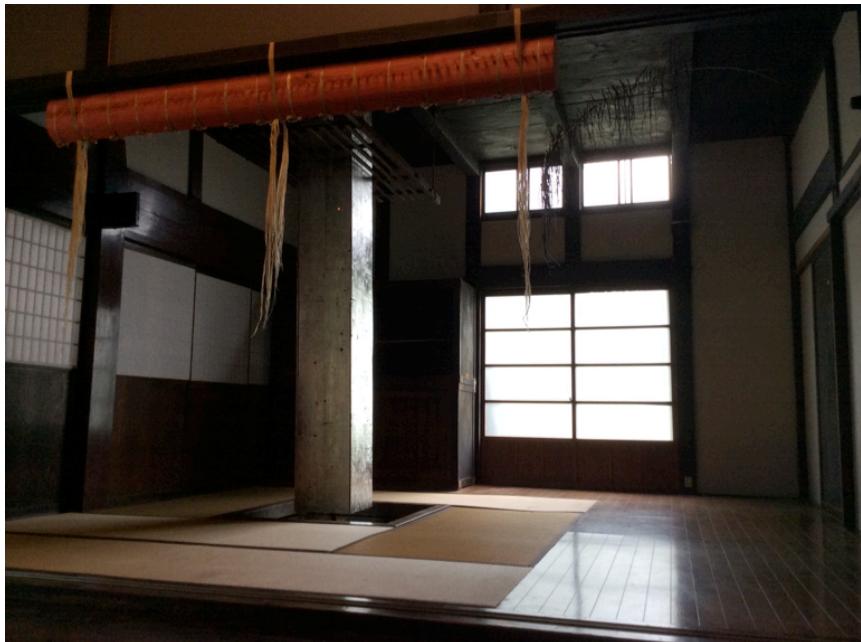
美術館設立の背景

オーナーであり、本展覧会のディレクターをつとめた福島ゆりは、ロンドン大学（スレード）にて、現代美術を学び、自らも制作活動を行う作家です。2007年に「七院」という魅力的な古民家を購入後、東京と松之山を行き来しながら、ギャラリーを立ち上げるべく準備をすすめました。

昨今、アートに触れる環境はさまざまですが、今なお白い壁に囲まれた場所 – ホワイトキューブはその中心に位置しています。また、アートプロジェクトやワークショップを通じて、アートの制作現場に関わる経験を持つ人が拡大している一方、日本では住宅事情などから、個人が作品を所蔵・公開する習慣は一般化しているとはいえません。

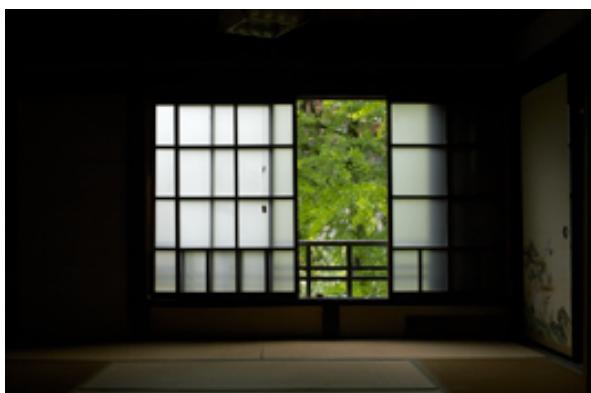
個人の「家」でもあるこの美術館では、アート作品が日常生活空間の中でどのように存在しうるのか、いわばアートの「モデルルーム」を提示していきたいと考えています。

展覧会成立の経緯と詳細



外丸 治 インスタレーション風景

今回、ディレクターである福島から、初めに作家にお願いしたのは、「展示する場所のことを考えて作品を作ること」でした。返ってきたのは、それぞれに強い個性を持った五者五様の応えです。



池ヶ谷 侑「ヨシヤ（緑葉）」
2014年／デジタルCプリント／25.3 x 20.3 cm



井口香奈子「For Boarding 板囲・搭乗へ」
2014年／Ikitsukuma／11 x 45 x 9 cm



平山 真澄「Soil Communication」
2014年／仙台産粘土／100 x 150 x 20 cm



山田 沙奈恵「あなたの対岸のうちのひとつ」
2014年／インスタレーション風景

5人に共通するのは、「サイトスペシフィシティ（場所の特異性）とは何か」という問い合わせです。一般的に、サイトスペシフィックなアートとは、「モノ自体だけではなく、作品の置かれた場所や周囲の空間を含めて、ひとつの作品として表示する表現方法および作品」を指し、絵画や彫刻などと並ぶ、今日の代表的な現代美術の表現方法となっています。

従来のインスタレーション展示は、基本的に設置された場所と一体視されるがゆえに、オークションで売買される絵画や彫刻と異なり、一種の不動産アート＝可動性のない作品とみなされてきました。しかし、本美術館に展示される作品の一部（オブジェや写真等）は、気に入っていた方にご購入いただく＝自身の家（生活空間）に持ち帰っていただくことができます。

よって、本展で提起される「場所の特異性」という問題は、1) 物理的に作品が可動かどうか 2) 現代美術の意味内容（コンセプト）的に、作品を設置場所から引き離しても成立可能かどうか、という2つの観点から考えることができます。

例えば、外丸治の作品は、ジロ（囲炉裏）に設置してありますが、本作品は、ほかの家の「ジロ」に移設することも可能です。あるいは、井口香奈子の作品を構成している複数のオブジェは、一部を持ち帰り、新たな生活空間に飾ることもできますが、七院という家や上蝦池集落で採取した素材を用いており、たとえ別の場所に移動しても、作品から（制作された）「場所の特異性」が全て消えることはありません。作品の物理的な可動性は、必ずしも「サイトスペシフィシティ」の条件とは限らないのです。

90年の時を重ねて来た「七院」に、真摯に向き合った5人の若手作家は、「住まうこととは何か」「地域の歴史や風土・コミュニティの特異性を捉える表現とはなにか」「場所と作品には、いかなる関係性がありうるのか」、改めて問いかける作品を呈示しました。訪れた皆様に、ありふれた日常や当たり前の視点をずらすような、気づきを投げかけることができればと願っております。ぜひ一度、足をお運びください。